

Working Paper Summary

JICA-RI Working Paper No.106

(2015年7月刊行)

Convergence of Aid Models in Emerging Donors? Learning Processes, Norms and Identities, and Recipients

Hisahiro Kondoh

Research Project: [開発協力戦略の国際比較研究：G20 新興国を中心に](#)

■付加価値

新興国を含む新興ドナーには、DACが考える援助の理想型を積極的に取り入れるドナーもあれば、むしろDACとの距離を保ち続けるドナーも見られる。では、なぜDAC援助モデルとの距離が異なるのであろうか。この問いに対し本稿は、(1) 新興国の援助モデルをDAC援助モデルとの距離を念頭に4つに分類したこと、(2) 国際政治論では注目されつつも、新興国分析には応用されてきたと言い難い構成主義のアプローチを取り入れたこと、(3) これまで援助研究で受動的なアクターとして描かれがちな援助受入国について、新興ドナーの援助モデル形成に一定の役割を演じうることを示した。これら3点が新たな貢献として指摘される。

■リサーチ・デザイン

本研究では、中国・インドの新興超大国援助モデル、南アフリカのハイブリッド援助モデル、アラブ・ドナーのイスラム援助モデル、韓国のアジア型DAC援助モデルの4モデルとDAC援助モデルとの距離を測定した。そのため、一次資料・二次資料の収集・検討を行いつつ、韓国・南アフリカの援助供与国、スリランカ・バングラデシュ・ボツワナ・スワジランドの援助受入国での現地調査を行った。分析にあたっては、外生的要因（グローバル化による収斂、国際文脈・外交戦略、援助関連の国際圧力、主要援助受入国の認識）と内生的要因（援助目的、学習プロセス、アイデンティティ・規範）を説明変数として、援助モデルとDAC援助モデルとの距離を被説明変数とした。特に、説明変数のうち、学習プロセス、規範・アイデンティティ、援助受入国の認識の3点に重点を置いて分析を行った。

■主な結論（政策的含意を含む）

分析の結果、主要新興ドナーの援助モデルの特徴を概観し、アラブ・ドナーは、イスラム援助モデルを、中国・インドは新興超大国援助モデルを、南アフリカは南南協力を取り込んだハイブリッド援助モデルを、そして韓国はアジア版のDAC援助モデルを形成していることを示した。DAC援助モデルとの距離については、中国・インドがDAC援助モデルから距離を保つ一方、南アフリカとアラブ・ドナーの援助モデルはDAC援助モデルを取り込み、韓国援助モデルはDAC援助モデルを大胆に導入するようになってきていると論じられる。DAC援助モデルとの距離に差異が見られるのは、援助受入国の認識や、援助供与国の学習プロセス、援助供与国の規範・アイデンティティが各援助供与国によって異なるからである。本稿からの示唆としては、新興ドナー援助モデルの形成には多様性・動態性が見られ、既存のDAC加盟国はその多様性・動態性を踏まえた対処が強調されることが挙げられる。